

感染症情報 7月8日～14日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①手足口病	1,689例(堺市 121例)
②感染性胃腸炎	862例(堺市 51例)
③溶連菌感染症	460例(堺市 51例)
④ヘルパンギーナ	435例(堺市 33例)
⑤伝染性紅斑	215例(堺市 24例)

府下インフルエンザ定点300医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	13例(堺市 1例)
---------	------------

感染症報告数は前週比2.4%減の4,104件であった。

報告数の第1位は手足口病で、以下感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑の順であった。

手足口病は府下で前週と比較して2%減、堺市も2%減であった。府下の定点当たりの報告数は8.78→8.57であった。感染性胃腸炎は府下で7%減、堺市では6%増であった。溶連菌感染症は府下で微減、堺市で7%減となった。ヘルパンギーナは府下で微増、堺市で38例→33例であった。伝染性紅斑は府下で16%減、堺市で30例→24例であった。

麻疹や風疹の報告はなかった。